



風化させてはならない原発事故

岸田首相は、総裁選で「温室効果ガス排出量実質ゼロにむけ再生可能エネルギー一本では電力の安定供給に充てられない。まずやるべきは原発の再稼働」と言いました。現在、この言葉通り、愛媛県伊方原発3号機が昨年12月に運転を再開。福井県美浜原発3号機は45年超の老朽施設ですが昨年6月に再稼働。40年超の高浜原発1、2号機も今年6月以降に再稼働すると言っています。大飯原発3、4号機は「国の設置許可を取り消す」という大阪地裁判決に国が控訴、「判決確定までは稼働できる」と昨年7月に3号機の再稼働を強行しました。

2018年11月、石川文洋さんの「80歳の列島歩き旅」に一日だけ同行させてもらい福島県富岡町に行きました。

その時の町の光景が忘れられません。卒業式を祝う横断幕がかかったままの学校体育館。下駄箱には上履きがそのままの状態。覆い隠すようにツタの絡まった家々。商店街はゴーストタウン。原発によって生活を奪われた現実が目頭が熱くなりました。

茨城では東海第二原発の運転差し止めを求める住民運動に対し、水戸地裁は「首都圏唯一の原発は30^{キロ}圏内で暮らす94万人の避難計画は実現可能ではない」と再稼働禁止の判決を下しました。闘いはこれからも続きます。

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」と言います。『月刊まなぶ』は、この11年、そしてこれからも3月に福島第一原発事故を風化させないよう特集で取り上げていきます。

労働大学企画編集委員 三宅 敏之